

松 風

福島県公立学校退職校長会

- 郷土の祭り紹介..... 1
- 論壇、随想..... 2
- 学校は今..... 3
- 趣味と生きがい..... 4
- 「寿詞・賀寿・賀詞」該当会員、県大会のお知らせ... 5
- 特色あるクラブ活動..... 6

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階
 TEL (024) 534-5411
 FAX (024) 531-1195



◀ 仮設住宅での「請戸の田植え踊り」奉納

仮設住宅での「請戸の神楽」奉納



◀ 震災前の安波祭当日、神社前の風景



▲ 新社殿で復興した安波祭の賑わい風景

郷土の祭り紹介

請戸の安波祭

双葉支部 紺野 廣光

浪江町請戸地区には、延喜式内社の若野神社があり、毎年二月の第三日曜日に例大祭として「安波祭」が行われていました。

平成二十三年の東日本大震災・東京電力原発事故発生により、請戸住民の約一割弱が津波犠牲者となり、全町避難を余儀なくされました。請戸地区は低地のため危険区域・移転促進区域に指定されましたが、令和六年二月十八日に神社が再建され、「安波祭」が執り行われました。

震災前は、社殿で郷土の安全祈願をした後、紅白二つの樽神輿が出され、神楽や田植え踊りも村中を巡りました。子ども達は、男子なら神楽の口上を真似たり、女の子なら踊り子に自然に触れたりしたものでした。村を一巡した樽神輿は、最後には海に入り、浜に準備された仮の本殿に置かれます。そこでも神事が行われ、神楽と田植え踊りも奉納され、祭りは終了します。

各家では、お母さん方は客をもてなす料理づくりに懸命で、「安波祭」は村最大のお祭りでした。

住民が二本松市の仮設住宅に避難していた時は、安波祭開催時期に、芸能保存会の「請戸の田植え踊り」が続いて「請戸の神楽」も仮設住宅を訪問し、住民を励まし、心の支えとなりました。

昨年二月に新社殿で実施された「安波祭」は、以前より狭くなった境内でしたが、震災前以上の賑わいでした。しかし、周り一面に民家はなく、防災林に変わった風景は、被災住民にとっては、うれしくもあり、寂しいものでもありました。

請戸の祭りは十二年十一か月で復興しました。そこには故郷に戻れない被災住民の思いや漁業を生業とする漁師の願い、芸能保存会の伝統を繋ごうとする強い郷土愛が感じられます。

今後も、請戸の「安波祭」が子々孫々にわたり、継承されることを願っています。

毎日、新聞の計報欄を見るのが日課になっていきます。計報の年齢が何歳であつても、ご家族、ご親族にとつての悲しみは同じです。しかし、郡山支部では六十代の若い会員がここ二年間のうちに相次いで亡くなりまして。年齢は関係ないとは言え、退職後の第二の人生をむかえ、これから様々なことに挑戦したり、楽しんで

なつていました。二度と会えないという運命を知つてさえないれば、家族は、できる限りの言葉と笑顔で愛を伝えていただろう、と書いています。そして、この記事の作者は、今日からは、気恥ずかしくても、たとえわだかまりがあつたとしても、しっかりと身近な人と向き合おう、今日を後悔しないように、と結んでいます。

ミュエル・ウルマンの詩を引用した「未踏の老いを生きる」という題で書いている文を読みました。「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。年を重ねただけでは人は老いない。理想を失うとき、初めて老いる」という詩です。この文を書いた人は、この言葉に共感しつつ日々を送っているということでした。実は、今年八十八歳、岩手県の人です。

論壇

二つの記事

副会長 工藤 博



二〇〇一年九月十一日に起きたニューヨークの同時多発テロを書いた記事を見ました。この事件後、「Tomorrow Never Comes」という詩が話題をまいたそうです。直訳すると「明日は絶対に来ない」となるのですが、佐川睦(むつみ)さんという人の訳は、「最後までとわかつていたなら」と

なつていました。二度と会えないという運命を知つてさえないれば、家族は、できる限りの言葉と笑顔で愛を伝えていただろう、と書いています。そして、この記事の作者は、今日からは、気恥ずかしくても、たとえわだかまりがあつたとしても、しっかりと身近な人と向き合おう、今日を後悔しないように、と結んでいます。

昨年、能登半島地震や水害などの自然災害、そして様々な事件、事故など、明日何が起ころかわからないし、何があつても不思議ではないことを考えると、ここには、「周りの人たちとかかわりながら、一日、一日を大切に生きていく」という意味も込められているのかと思ひました。また、ずいぶん前にサ

なかなかサミュエル・ウルマンのような境地にはなれません。しかしこの二つの記事は、周りの人との交わりを大事にしながら、自分なりの目標を持って、日々元気に過ごして行くことの大切さを教えてくれていると感じるのです。



随想

魅せられて



安達支部 安田 幹雄

今から十七年前、退職した年の春、ある先輩の勧めで始めたのが野菜作りである。最初は、暇つぶしのような軽い気持ちで行っていたが、日を重ねていくうちに野菜作りの楽しさや面白さに魅せられて本格的に取り組むようになった。その魅力に比例するかのようにつける野菜の種類も面積も年々増えていった。

らといつて一粒蒔いても発芽率が悪く、育ちも悪い。野菜もある時期までは集団の中で育てた方がいいようだ。定植は、苗が独り立ちする時で、世話の仕方がとても大事である。かといつて手をかけすぎると自立するための根が地面深く充分に張ることができず、育ちが悪くなり、著しく減収してしまうことがある。肥料など常に与え続けて育てると大きく生長するものの、全く花も実もならない野菜もある。このように注意深く観察して世話をしているのと、日々発見の連続であり、益々魅せられてしまう。

野菜作りの魅力はいろいろあるが、何といつても採れたての旬の美味しい野菜を口にできることである。毎日の食卓を彩る野菜を見る度にこれ程の贅沢は無いと感じている。野菜作りをしていると教えられることもあり、ついつい子育てや教育と重ね合わせて考えてしまうことも多い。種を蒔く時、一本の苗が欲しいか

現在、十六アールの土地で年間六十種の野菜を栽培している。自分の家だけでは食べきれないので、兄弟・友人・知人や近所の方におすそ分けをして沢山の笑顔をいただいている。体力は、衰えてきたが、動けるうちは、野菜作りを続け、これからも健康で楽しい人生を送っていききたい。

学校は今

小学校は今

『学校の働き方改革』



福島県小学校長会
会長
石幡 良子

本県のみならず、全国の教育現場で教員の多忙化が深刻化し、「ブラック」のイメージが払拭できていない現状があります。各学校では業務改善に力を入れてはいますが、抜本的な解決には至っていません。

働き方改革は、教員の働き方を見直し、子どもたちとの向き合い方を根本から変える可能性を秘めています。業務の効率化により生まれた時間の中で、教員は、子ども一人一人の個性や成長に寄り添い、よりきめ細やかな指導を行うことができますようになります。具体的には、

・余白時間の創出

業務の効率化により生まれた時間を、教材研究や新

たな試みに充てることができ

・教員の意欲向上

自ら考え行動できる時間が増え、教員は「やりがい」を感じ、生き生きと働くことができます。

・授業の質向上

教員が主体的に授業改善に取り組むことで、子どもたちの学びは深まり学力向上に繋がります。

・子どもとの信頼関係構築

生き生きとした教員の姿は、子どもとの信頼関係を深め、より良い学びの環境を生み出します。

・学校全体の活性化

教職員も子どもも学校生活を楽しめるようになり、不登校やいじめ防止にもつながり、さらには教員志望者も増えることが期待されます。

働き方改革の目的は、教職員が心身ともに健康で、生き生きと教育活動に専念できる環境を整備し、ひいては、子どもたちの学びの

質を向上させることにあります。それは、単に業務量を減らすだけでなく、教員の専門性を高め、教育の質を高めるための取組です。

県小学校長会といたしましても、理事会研修会において、改革が進んでいる学校の好事例を共有し、改革が進まない要因を協議し合ったり、外部講師から他県の取組を聞いたりしながら、変革の波を横展開しているところであります。

子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、教職員のウェルビーイングを向上させることが何より大切です。これからも、校長会という組織を大事にし

中学校は今



福島県中学校長会
会長
板橋 竜男

三年前、今の学校に赴任した時、ある女子生徒が入学してきた。街頭指導で

「おはよう」とあいさつしても、ほとんど返ってこなかった。たぶん、小さな声であいさつしていたのかもしれないが、普段の学校生活から自分を表現している様子は見られなかった。この生徒が、なぜか合唱部に入部した。「音声が出来るのだろうか」先輩の音量に圧倒され、ほとんど声がか聴こえてこなかった。月日が過ぎ、そんな彼女が最上級生になり、パトリリーダーとして活動した。後輩への指導も行い、各種大会にも参加した。全校生徒の前で曲についての紹介も行い、文化祭では個人パートも泣きながら歌った姿が印象的だった。ここまでの成長は、彼女自身の頑張りもあつたと思うが、それを支えた顧問や担任の先生の献身的で、生徒を思う熱い指導が大きかった。

今、冬休みであるが、年明けの私立高校への推薦入試などで、面接指導や作文指導を行ってくれている先生がいる。3学期での大会やコンクールに向けて、日々、部活動指導を行って

くれている先生がいる。また、大会はなくとも、生徒にとつての居場所としての部活動と一緒に活動してくれる先生がいる。こんな活動を見ていると、本校は働き方改革があまり進んでいないのではとお叱りを受けそうになる。でも、時々、今の私たちの価値観や経験で、様々な活動をなくしてよいのだろうかと思うことがある。

令和の日本型教育は昭和からの献身的な教育活動の上にあると言われているが、昔から、生徒を思う熱い指導で教育は成り立ってきた。もちろん、その先生方の思いを利用して、残業や居残り指導を行えとは思わない。しかし、その情熱が教育の魅力だったし、私たちが憧れていた先生だっただけである。

私も残り一〜二か月となった。働き方改革を進めながら、今の先生方の情熱、これをいかにつなぎ、生徒にとつての成長、魅力的な教育活動を進めていくか：正念場である。

趣味と生きがい

囲碁と生きがいについて思うこと



田村支部
谷川 健二

私の数少ない趣味の一つは囲碁です。インターネットの普及により囲碁を楽しむ形も大きく変わり、AIとの対戦やオンライン対局が主流になりつつあります。しかし、平安時代より連続と続く人と人との直接対局ならではの魅力も失いたくないものです。AIに『囲碁にゲーム以外に求めるもの』を尋ねてみると、「人間同士が直接向き合うことで得られる深い交流や学びを提供してくれるもの。北欧の小学校ではノートとペンによる授業が再び注目されているとのこと、効率や利便性が求められるスマートフォンやパソコンのゲームでは味わえない人間らしさや原点回帰を気づかせられることも。囲碁が『手談』と呼ばれるのは、言葉を超

えたコミュニケーションが可能だから」とのこと。私が抱いていたインターネット囲碁のモヤモヤ感をスッキリ解消してくれたと思います。

校長職を辞した後、七十歳までにやっておきたいことを百個書き出してみました。月並みですが、各地を旅行したいとか美味しいものを食べたいとか私欲にまみれたものばかりです。退職校長会の名人戦で優勝したいとか一生に一度は富士山に登りたいとかは達成できませんでした。自分の人生これでよいのかという忸怩たる思いもあります。校長(教員)だったからこそ、地元民だからこそやれることはないのか。退職校長会はそのような場所でありたいと考えています。

この足と平和共存



東白川支部
中島 一枝

趣味と言おうか。必要に迫られて、と言おうか。プールに通って二十六年。一年に百回以上は泳いで来た。私の左足は六センチ短い。生まれつきの変形性股関節脱臼である。若いころはスポーツもやっただし安達太良山にも登った。しかし、五十代後半から筋肉の衰えもあってか、股関節が悲鳴をあげるようになった。退職後頂いた仕事があった。途中で投げ出すわけにはいかない。幸い近くにルネサンス棚倉のプールがあった。水泳は心身のケアに非常に効果的であるとのこと。ひたすら通った。水中歩行、クロール、背泳。いつの間にか泳げるようになった。プール友ができた。りりハビリ仲間ができて励ましあえたりした。痛みは生きる気力を奪うので要注意である。お陰様で手術をしないでいる。

今後は夫の介護、畑仕事、日記代わりの短歌、ほけ防止のNHKラジオ英会話。微々たるものではあるが社会への恩返し。人間にはいくつになっても伸びしろがあると言おう。この身体でどこまでやれるか分からないが、不具合ではあるけれどもどこまで私を動かしてくれた左足に「有難う」と言いたい。また私を励まし助けてくださった方々に感謝である。

地域の歴史探訪と魅力



南会津支部
佐藤 淳一

私は現職時代より地域の歴史に興味を持ち、会津史学会の会報誌などを読んできました。

今から二十年前に地区のイベントで会津中街道を歩くことになってからは、その歴史的魅力にとりつかれ、休みの日などを使って街道の調査をするようになりました。

退職してからは、仲間と協力しながら、年に一回程度那須山中の街道を歩くイベントも企画してきました。

この街道は、ギリシャ神話に登場するトロイ遺跡同

様に歴史の闇の中で謎に包まれていきます。そのため自宅の古文書や地域史を紐解きながら解明を進めてきました。過去五回程度論文をまとめることで、街道の道筋やその全体像を明らかにすることができました。

また、この街道を歩くと歴史的遺物(道標や馬頭観音像、山岳信仰遺跡等)が数多く見られ、三百年の歴史の息づかいがそのまま伝わり、那須連山の四季の光景と相まって、何とも言われぬ心地よさが風になって体を吹き抜けます。

昨年からは、会津中街道同様に歴史の闇の中に消えてしまった那須山中の山岳信仰(白湯山信仰・高湯山信仰)の調査とその魅力を伝える活動をしています。範囲が那須塩原市、那須町、下郷町と広いので、広範囲の組織を作って熊野古道のような姿にできたらいいなと思っています。

今後も体力と気力が続く限り、地域の歴史を発掘していきたいです。

令和七年度 「寿詞・賀寿・賀詞」 該当会員名簿

一 「寿詞」(満百歳)

大正十四年四月二日

大正十五年四月一日生まれ

- 1 安達 杉内 豊徳様
- 2 伊達 宍戸 成男様
- 3 福島 菅野 栄二様

二 「賀寿」(満九十五歳)

昭和五年四月二日

昭和六年四月一日生まれ

- 1 いわき 釜野井真一様
- 2 郡山 三瓶 積善様
- 3 福島 坂本 守正様
- 4 岩瀬 角田 利朗様
- 5 耶麻 江花 修様
- 6 いわき 油坐 三治様
- 7 いわき 白土 信美様
- 8 南会津 室井 強様
- 9 郡山 遠藤 四郎様
- 10 いわき 伊藤 集三様
- 11 田村 浮内 彰様
- 12 いわき 大平 喜好様
- 13 福島 佐々木俊昭様
- 14 両沼 田中 宗光様
- 15 いわき 川村 名様
- 16 いわき 宮内 壽雄様
- 17 いわき 村田 和夫様
- 18 福島 遠藤 忠藏様

三 「賀詞」(満八十八歳)

昭和十二年四月二日

昭和十三年四月一日生まれ

- 19 耶麻 蓮沼 敏雄様
- 20 福島 影山 和儀様
- 21 田村 白岩 清様
- 22 いわき 佐藤 光之様
- 23 相馬 志賀 英隆様
- 24 双葉 菅野 茂様
- 25 石川 酒井 忠男様
- 26 郡山 岩見 豊一様
- 27 双葉 高田 久夫様
- 28 いわき 阿部 正孝様
- 29 いわき 小野 功様
- 30 田村 渡辺 忠次様
- 31 郡山 武田 祐輔様
- 32 郡山 國分 義功様
- 33 東白川 安齋 保様
- 34 郡山 野崎 武様
- 35 郡山 武藤 宗様
- 36 郡山 武田 芳様
- 37 西白河 佐川 和久様
- 38 福島 海野 和夫様
- 39 いわき 山内 正衛様
- 40 石川 棚瀬 英一様
- 41 郡山 本名 正一様
- 42 東白川 星 仁子様
- 43 郡山 松尾 昌一様
- 44 岩瀬 角田 隆様
- 45 北会津 横山 敏明様
- 46 いわき 小野塚正男様
- 47 福島 佐々木徳芳様
- 48 いわき 市川 善明様
- 49 安達 須賀 紀一様
- 50 岩瀬 中潟 昭雄様
- 51 郡山 平山 昇様

- 19 相馬 大久雄一郎様
- 20 北会津 新井田滋雄様
- 21 郡山 青山 榮一様
- 22 いわき 佐藤 礼右様
- 23 石川 吾妻 幹廣様
- 24 相馬 佐藤 恒雄様
- 25 田村 大谷 明弘様
- 26 郡山 岩見 豊一様
- 27 双葉 高田 久夫様
- 28 いわき 阿部 正孝様
- 29 いわき 小野 功様
- 30 田村 渡辺 忠次様
- 31 郡山 武田 祐輔様
- 32 郡山 國分 義功様
- 33 東白川 安齋 保様
- 34 郡山 野崎 武様
- 35 郡山 武藤 宗様
- 36 郡山 武田 芳様
- 37 西白河 佐川 和久様
- 38 福島 海野 和夫様
- 39 いわき 山内 正衛様
- 40 石川 棚瀬 英一様
- 41 郡山 本名 正一様
- 42 東白川 星 仁子様
- 43 郡山 松尾 昌一様
- 44 岩瀬 角田 隆様
- 45 北会津 横山 敏明様
- 46 いわき 小野塚正男様
- 47 福島 佐々木徳芳様
- 48 いわき 市川 善明様
- 49 安達 須賀 紀一様
- 50 岩瀬 中潟 昭雄様
- 51 郡山 平山 昇様

- 52 いわき 佐藤 忠弘様
- 53 郡山 柳沼 穹壹様
- 54 石川 角田 文代様
- 55 安達 佐藤 宇一様
- 56 岩瀬 渡邊 碩男様
- 57 郡山 圓谷 博様
- 58 郡山 渡部 睦雄様
- 59 北会津 二瓶 修様
- 60 福島 佐藤 忠三様
- 61 北会津 本多 勝男様
- 62 郡山 上遠野一也様
- 63 南会津 湯田 耕衛様
- 64 郡山 村上 達彌様
- 65 岩瀬 高谷 孝二様

- 一 期 日
令和七年六月十日(火)
- 二 会 場
御蔵入交流館
(南会津町田島宮本東三)
電話(〇二四一)
六二一六三一一
- 三 大会日程
・受付 十時
・開会式 十時三十分
・講演 十一時二十分
《演題》
「米焼酎ねっかで
只見を生き抜く」
《講師》
合同会社ねっか代表
脇坂 齊弘氏
・昼食・懇談
十二時二十分
・体験発表
十三時二十分
伊達支部・田村支部・
双葉支部
・大会宣言
十四時四十分
・閉会式
十四時五十分
- 四 会 費
・千五百円
- 五 参加人数
・百八十名程度

お知らせ

第五十九回福島県公立学校
退職校長会会津大会開催に
ついて

▽主催
・福島県公立学校
退職校長会

▽後援
・南会津町教育委員会
・福島県市町村教育委員会
連絡協議会北会津支部、
耶麻支部、両沼支部、南
会津支部

特色あるクラブ活動

光と影を求めて

福島支部

暗闇の彼方に光る一点を今駅舎の灯と信じてつづ行く。

これは映画『駅』で語られた一節ですが、闇と光、光と影をどのように写真に収めるか、カメラのファインダーに利き目を当てる生活が八年になります。

福島支部にある八クラブの一つ、フォトクラブ・Tは昨年十月、福島テルサのギャラリーにて第八回写真展を開催しました。月一度の例会に写真を持ち寄り、一枚一枚の表現の可能性を研修しています。部員は退職したばかりの新会員から九十歳の名誉会員まで年齢の幅は広く、撮影の経験も様々ですが、互いに影響を受けながら作品づくりを楽しんでいます。

二年に一度の写真展が、七年度から毎年行うことになり、十月に開催します。案内は支部の協力を得て全会員に配付。支えてくださる会員の方々に感謝しながら

ら、光の矢を放つ夜明け前、カメラを手に出かける。生活のこの瞬間を見る、忘れまいと心に刻みシャッターを切りたい、と強く思うのです。



(写真クラブ 山寺精吉)

ゴルフで健康に

西白河支部

ゴルフクラブの名称はOBSM会、Old Boy School Masterの略です。クラブ員は西白河と東白川の退職校長三十三名(西が二十二名名、東が十一名)です。コンペは、一月を除いて、原則として毎月第一火曜日、西白河と東白川の五か所のゴルフ場を会場として開催しています。ゴルフコンペは、令和六年の十二月で、二百二十一回目を迎えました。

会の目的は、ゴルフを通して、会員が親睦を深め、健康増進に努めることです。が、毎月のコンペでは、それぞれが優勝カップを目ざし、自分のスコアに一喜一憂しています。

十年ほど前から、ゴルフクラブの地域貢献として毎回の参加費の一部を積み立て、毎年地域の青少年赤十字活動の支援をしています。カートに乗りながらも一ラウンド一万数千歩以上歩いています。ゴルフで健康になり、健康だからゴルフができるのだと思います。ナイスショットを打ったときの爽快感、自然の中でプレーする開放感は格別です。仲間と共にこれからもゴルフを楽しみたいと思います。



2024年9月のコンペ

(ゴルフクラブ 大戸祐二)

「イベントクラブ」の新設

いわき支部

いわき支部では、クラブ活動への参加者の減少や高齢化等の課題解決のため、令和六年の九月より、「イベントクラブ」を立ち上げ、来年度からの本格実施のため現在「試行的」に実施しています。

- この「イベントクラブ」とは、会員の発案による、
- 料理をつくろう
- 生け花をしよう
- バイクでツーリングをしよう
- ゴルフ大会をしよう

など様々なイベントに誰でもが自由に参加できるクラブ活動で、ラインに登録すれば誰でもがイベントの情報を受けられ参加できるようにしたものです。さらに、既存のクラブ活動の紹介等もこのラインで行い、クラブ内の大会や発表会の情報等も会員に発信しています。イベントの情報を受け取った会員は、各自の自由意思で参加・不参加を判断できる手軽さがあります。

今後、ラインでの登録者を増やし、既存のクラブの活性化も含めて令和七年度からの本格実施に移行してまいりたいと思います。【イベントクラブで発信した情報の写真】



園芸クラブの菊花展の様子

(イベントクラブ担当 門馬 栄)

編集後記

「松風」第一七一号から始まった『郷土の祭り』紹介は、今回号の「双葉支部」をもって終了です。十六支部の関係の皆様にご心より御礼申し上げます。次号から新しい内容をお届けします。お楽しみに。



ホームページ二次元コード
【会員専用パスワード】
9604162
毎月1日は閲覧日